

①日本国特許庁(JP)

①特許出願公開

②公開特許公報(A)

昭54—122528

③Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 60 T 1/14

識別記号 ④日本分類  
80 E 4

庁内整理番号 ④公開 昭和54年(1979)9月22日  
7401—3D

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑤まさつ面増加装置付き自動車ブレーキ

⑦発明者 加藤達人  
富士市天間1112—7

⑧特 願 昭53—30579

⑧出 願 人 加藤達人  
富士市天間1112—7

⑨出 願 昭53(1978)3月15日

明 細 書

1. 発明の名称 まさつ面増加装置付き自動車ブレーキ  
2. 特許請求の範囲

車体中央部底に取りつけ支持具(1)をつける。

(1)の先端に地面とのまさつ具(2)をつける。

取りつけ支持具(1)を車体側を支点として上下に動かす装置(3)を連結する。

以上の様に構成された自動車ブレーキ

3. 発明の詳細な説明

この発明はまさつ具(2)によつて急ブレーキ時の制動距離をちぢめるため4本のタイヤ以外のまさつ面を加えたものである。

従来の自動車ブレーキはタイヤがロックされた場合どのようなブレーキシステムでも停止距離はあまり変らなかった。

そこで本案は4本のタイヤのまさつだけでなくもう一つ地面とのまさつ面を増したのである。

(1)は取りつけ支持具で通常たたまれており作動時は車体側を支点として別端が下にいき地面との接触点までさがる。

(2)はまさつ部分で板状、タイヤ状のものが考えられる。素材はゴム、固体と使用できる。(3)は(2)の支持具を動かすための装置で前後運動できるピストンとシリンダーで構成されている。ピストンを動かす動力源はバネ、排気ガス、コンプレッサーの圧力空気で得られる。

作動順序を述べると、ブレーキをふむ、タイヤがロックされる所までふみこんだ時作動し、バネの場合(4)のロックが(6)のオイルの圧力ではずされてバネがのびてピストンを前後いずれかに動かす。排気ガスの場合エンジンから直接(3)のシリンダー内へとバイパス(7)を結び作動と同時に排気ガスの弁(8)が開きシリンダー内に高圧の排気ガスが注入されピストンを動かす。コンプレッサーを使用した場合も同じ作用である。

ピストンの動きは、車の進行方向にむかつて後に動くものと前に動くものと二種類ある。

後に動くものは(1)の支持具を押したす形で第5図と第7図の構成で、前に動くものは第6図の構成で引き出す形である。

第3図はピストンの引っ込み形で接触面(2)をタイヤ状にしたもので第4図はピストンを押し出す形で(2)を板状にしたものである。

作動中はパイロットランプがつくようにする。車が停止したらピストン(4)をもとにもどす。バネを使った場合時のもとしロープを運転席から(5)のロックがかかるまで引きもどす。排気ガスの場合ブレーキをもどすと(8)の弁が閉じもとしロープ(10)を引くと除去弁(8)が開きロック(5)にかかり固定されると除去弁(8)はマグネット作用で閉じられる。

以上の様な作用のブレーキを用いると急ブレーキの時は停止距離がちぢみ、雪や凍結している時は横すべりがふせける。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本案の車体取り付け平面図

第2図は本案の斜視図

第3図、第4図は本案の側面図

第5図、第6図、第7図は(3)の断面図

1は取り付け支持具 2はまさつ具

3はシリンダー 4はピストン

5は固定ロック

6はブレーキオイル

7はバイパス

8は除去弁

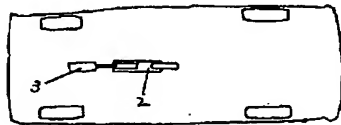
9は排気ガス注入弁

10はもとしロープ

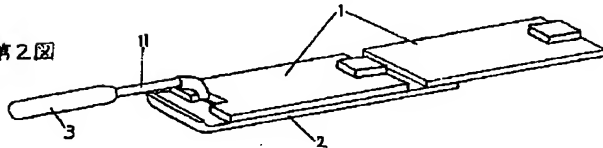
11は連結棒

特許出願人 加藤 達 人

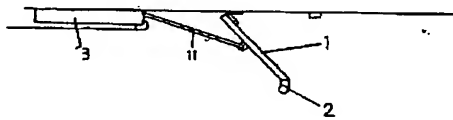
第1図



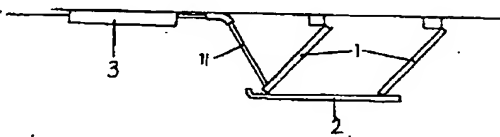
第2図



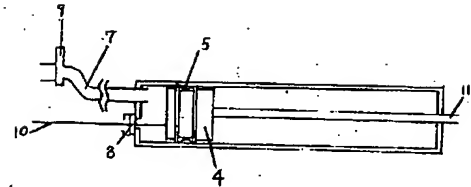
第3図



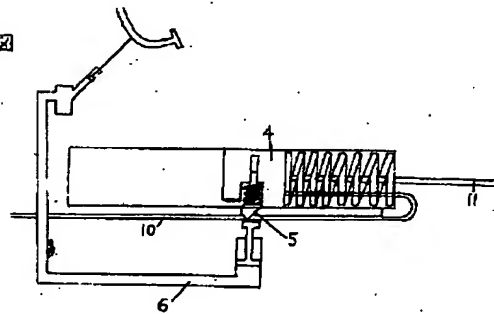
第4図



第5図



第6図



第7図

